

「美食都市 京丹後」の推進戦略

—「美食×幸福長寿」の地域ブランド確立に向けて—

市長公室 美食のまちづくり推進課

1. 「美食都市」とは

※「美食」及び「美食都市」の定義は、美食都市研究会のものを採用し、その理念や評価基準を本市の指標としても活用する。

- ◎ **「美食」の定義**：贅沢な食事ではなく、その土地に根ざした作物や料理、そして人々の暮らしと文化を映し出すもの。
- ◎ **「美食都市」の定義**：「都市」とは大都市ではなく、自然や歴史、食文化が息づく“まち”や地域社会を指す。

2. 「美食都市」を推進する背景

京丹後市は、古来より風土に根ざした食文化が育まれ、間人ガニ、丹後産コシヒカリ、地酒、季節のフルーツ、丹後ばらずしなど、高いブランド価値を有する地域資源を数多く創出してきた。

また、平成28年に市議会で決議された「京丹後『食の王国』のまちづくり宣言」の理念を継承・発展させるとともに、世界的美食都市モデルであるサン・セバスティアンに学び、国内初の「美食都市アワード2024」受賞という客観的評価を契機として、取組を新たな段階へ深化させるものである。

3. 基本理念

京丹後市固有の風土に根ざした食文化の価値を守りながら新たに創造し、未来世代へ継承することを基本理念とする。

4. 京丹後が目指す「美食都市」

「美食都市」は目的ではなく、産業振興と地域づくりを両輪で進めるための「戦略軸」である。

この戦略軸の下、京丹後市が目指す「幸福長寿」と掛け合わせ、地域経済活性化とブランド力向上、地域力向上を図り、ひいては地域固有の魅力につなげる。

そのためには、地域の食文化を守り育てる「暮らし」と、その価値を高めて地域外からの評価や消費を生み出す「稼ぐ力」を両立させ、持続可能な好循環を構築することが重要である。



5. 「美食都市」を推進する体制

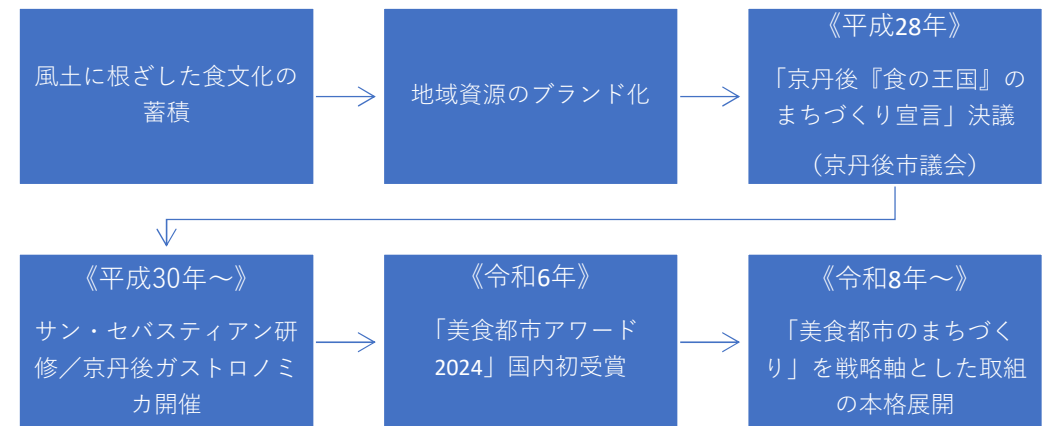
- ◎ **推進の軸**：産官学金民が一体となって事業を推進するため、京丹後市美食都市のまちづくり推進協議会を、地域の「稼ぐ産業振興」と「誇りある暮らしの創造」を実践するプラットフォームとして位置付ける。構成員が現場の知見とリソースを持ち寄り、事業の企画・実行を担う中心組織として主体的に取り組む。
- ◎ **専門的助言**：美食都市研究会と連携し、同研究会の理念や評価基準を指標として活用しながら、客観的かつ専門的見地からの伴走支援を受けることで、持続可能な美食都市のまちづくりを推進する。
- ◎ **総合調整**：市長公室美食のまちづくり推進課及び庁内「美食都市のまちづくり推進プロジェクトチーム」が、各施策の進行を管理・調整する。
- ◎ **実務支援**：「地域活性化起業人制度」を活用し、民間人材の知見を取り入れた実務支援体制を構築する。

6. 美食都市研究会との連携

「美食都市アワード」を創設した食と地域文化の専門家組織。本市とは、美食都市としての理念構築や持続可能なまちづくりにおいて専門的見地から連携する。

本市の地域特性を深く共有し、客観的かつ伴走型の助言を受けることで、未来世代へ継承可能なまちづくりを推進する。

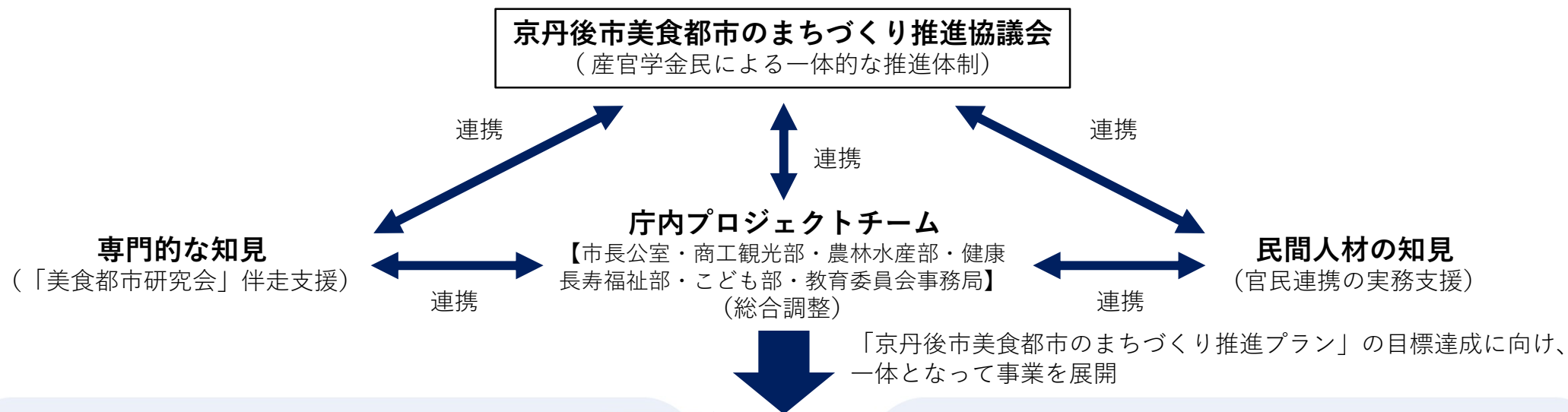
【美食都市推進の経緯】



7. 事業イメージと期待される効果

「美食」と「幸福長寿」を共通言語として、「『かせぐ』産業振興」と「誇りある『くらし』の創造」の双方を高め、地域全体の好循環を生み出す。

【推進体制図】



『かせぐ』産業振興

- 「食」の担い手人材育成、料理人・生産者連携強化
- 農水畜産物のブランド化及び6次産業化の推進
- 京丹後の食を語る「食のガイド」育成
- 美食を軸とした周遊・滞在型観光の促進
- Webサイト等を活用した情報発信
- 美食都市間連携（14都市・令和8年6月現在）による情報発信・交流促進

誇りある『くらし』の創造

- 食文化の継承と食育の推進
- 食による幸福長寿の増進
- 「美食」を活かしたシビックプライドの醸成
- 食の土台となる環境保全の機運醸成

好循環の構築

美食 × 幸福長寿

【目指す姿（期待される効果）】

- ◎ **地域経済活性化**：交流人口・関係人口の拡大及び産業の活性化
- ◎ **ブランド力向上**：「美食都市 京丹後」としての国内外への発信力強化
- ◎ **地域力向上**：地域の食に対する誇り（シビックプライド）の醸成と、世代を超えた食文化の継承